

今月の

5冊



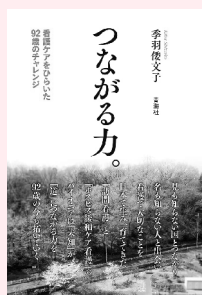
現場で役立つ よくわかる訪問看護

佐々木淳＝総監修、
岩本大希、藤野泰平、
柳澤優子、吉江悟＝監修
発行：池田書店
定価：3080円（本体2800円＋税10%）

訪問看護師の仕事はどういうものかというところから、訪問看護で求められる看護技術までを網羅的に扱うテキスト。イラストや写真を豊富に使った誌面なので、これから訪問看護師として一人前になりたい初任者にもぴったり。事業所に1冊置いておきたい。

つながる力。 看護ケアをひらいた92歳のチャレンジ

季羽倭文子＝著
発行：青海社
定価：1980円（本体1800円＋税10%）



訪問看護やホスピスケアを日本に広めた看護界の重鎮が初めてのエッセイに挑戦。90代の悲喜こもごも、リアルな日常とともに、40代半ばでなぜスコットランドに留学し、訪問看護やホスピスケアに出会ったのか。50年前に翻訳した『死の看護』の反響、ホスピスケア研究会の活動など、軽やかにつづる。

超高齢社会のまちづくり 地域包括ケアと自己実現の居場所づくり

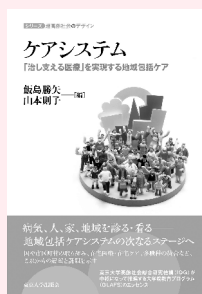
後藤純＝著
発行：学芸出版社
定価：2530円（本体2300円＋税10%）



人生100年時代、高齢者の9割はそこそこのお金を持ち、簡単な支援で自律できる。彼らの不安を解消し、生活を楽しめるように支えるまちづくりが進めば「高齢社会＝負担増」という図式は変わる。これを実現するコミュニティの支援的環境はどのようにつくればよいのか。実践のための共通言語となる基礎知識をまとめている。

ケアシステム 「治し支える医療」を実現する地域包括ケア

飯島勝矢、山本則子＝編
発行：東京大学出版会
定価：4400円（本体4000円＋税10%）



次なるステージへ進むことが求められる地域包括ケアシステム。本書は、先進的で実践的な取り組みを紹介しながら、国や市区町村の取り組み、在宅医療・在宅ケア、多職種連携など、地域包括ケアを核とした安心なシステムを設計するための多様な視点を明らかにする。地域包括ケアのこれからの展望と課題を提示する1冊。

高齢者のナイトケア 生活の場を中心とした支援のポイントと実際

尾崎章子、坪井桂子＝編著
発行：日本看護協会出版会
定価：2860円（本体2600円＋税10%）



日中とは異なる環境下の夜間には、夜間特有の高齢者ケアが求められる。療養型病院や回復病棟、特養や老健、在宅などの生活の場を中心に、限られた人員でも尊厳を守り、その人らしい生き方を支えながら提供できる適切なナイトケアを実践事例とともに解説する。